

【長崎短期大学 令和7年度決算について】

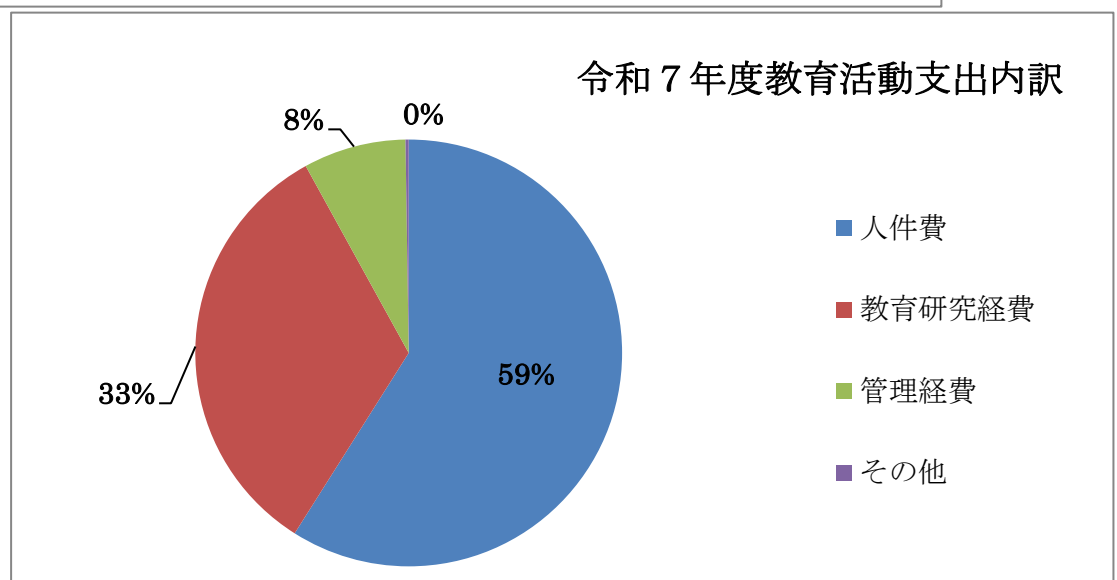
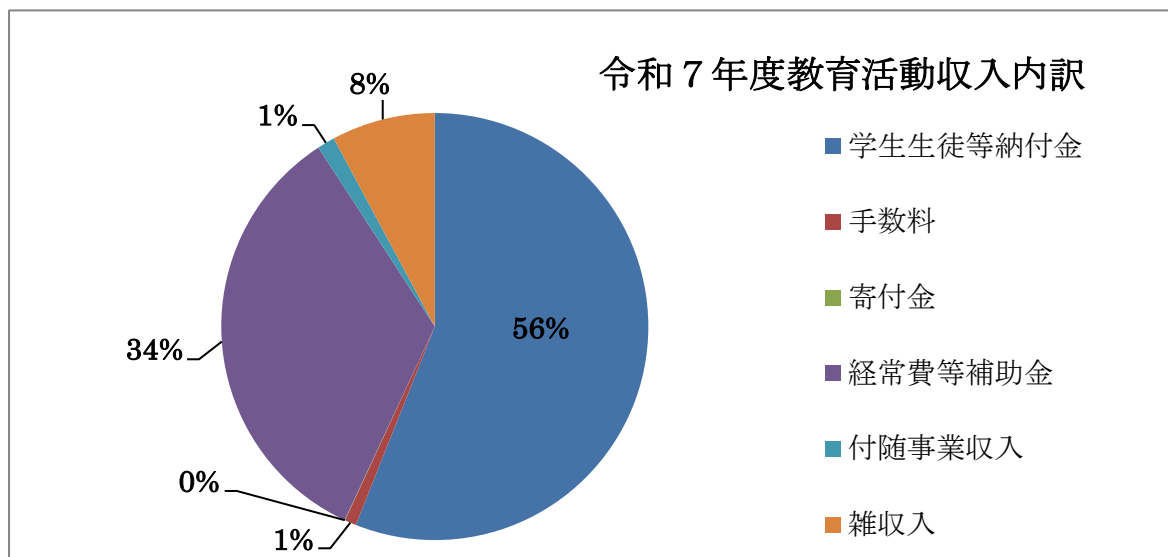
1. 本学の経常収支表

令和7年度の教育活動収支の概略を下記の図表に示します。

(単位：千円)

科目	R5決算	R6決算	R7決算
学生生徒等納付金	465,705	449,444	408,482
手数料	6,672	5,783	6,410
寄付金	1,781	461	218
経常費等補助金	190,962	202,409	246,932
付随事業収入	7,279	6,937	9,756
雑収入	23,507	7,633	57,209
教育活動収入計 …①	695,906	672,667	729,007
人件費	438,114	417,428	410,399
教育研究経費	219,940	203,394	229,714
管理経費	35,746	29,387	54,097
その他	3,067	660	1,683
(教育研究経費減価償却額 …③)	(63,662)	(59,507)	(56,670)
(管理経費減価償却額 …④)	(2,760)	(810)	(823)
教育活動支出計 …②	696,867	650,869	695,893
教育活動収支差額 …①-②	(961)	21,798	33,114
(減価償却除く …①-②-③-④)	65,461	82,115	90,607
基本金組入前当年度収支差額	634	22,359	8,884

※千円未満の金額を四捨五入



2. 本学の財務状況（令和7年度）

収入面については、入学者の減少により学納金収入が減少したものの、経常費等補助金及び修学支援新制度の多子世帯区分対象者が増えた事による増収が大きく影響している。その他の収入については、退職者の影響によるものである。

支出面については、メニュー1・2の取組等により教育研究経費及び管理経費ともに支出増となったが、人件費の減少により教育活動支出を抑制することができた。

教育研究経費の支出増の主な要因は、修学支援新制度の多子世帯区分対象者増による奨学費支出であり、管理経費の支出増の主な要因は、補助金の前年度分の返金とHPリニューアル経費である。

3. 令和7年度の特記事項

令和6年度に採択された「少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援事業」における各項目における令和7年度の主な取組活動進捗状況は以下の通りである。

★【メニュー1】

少子化時代をキラリと光る教育力で乗り越える、私立大学等戦略的経営改革支援

申請時の計画の柱である保育学科の3コース制の募集を開始したところ、令和8年度の入学定員充足率が、昨年度55%から97.5%に増加した。

また、広域圏内の市町との取組の一環として、小値賀町より本学学生の学びの場の提供及び活動費の支援を受け、地域の課題解決に向けた取り組みを継続的に実施している。

★【メニュー2】

複数大学等の連携による機能の共同化・高度化を通じた経営改革支援

計画における共同のLMSシステムの導入が完了し、令和8年度より稼働を開始するに至った。

また、事業の一環として、2校のみではあるが、電力の共同購入を令和8年度より実施するため、電気代の削減効果が期待される。今後も、3校で共同調達・共同施設利用・クロスアポイント等、取組内容の充実を図ることで、更なる経費削減を図る。

※令和6年度に採択された「少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援事業」における

本学の事業名や取組上状況等の詳細はHPよりご確認ください。

[【メニュー1・メニュー2】「少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援」の事業内容について](#)

※「メニュー2」九州短期大学共創プラットフォーム：<https://kjcip.nisikyu-u.ac.jp>

4. 卒業記念品の贈呈

令和7年度の卒業生より、卒業記念品として「デジタルサイネージ」が贈呈された。

イベントのお知らせや来客対応時の案内など、様々な場面で有効活用していく。